

令和 7 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	85	学 校 名	静岡県立湖西高等学校	校 長 名	望月 俊和
------	----	-------	------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

◎及び○は良かった点や成果など ■は改善点や課題 ☆は継続・さらに伸ばしたい点など

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	全教育活動を通じて、安定的な生活リズムの確立を支援する。	「時間を守り、自立した生活ができている」と答える生徒が95%以上 「朝食を取っている」と答える生徒90%以上	・「時間を守り、自立した生活ができている」生徒 87.6% ・時間を意識した行動ができていると考える生徒が若干減少した。R6 90.5% ・「朝食を取っている」生徒 86.4% ・朝食を取る生徒は昨年度から90%前後で推移している。	B	■時間を守る意識が、生徒と保護者（77.8%）で差がある。対外的にも認められる「自立」を身につけさせていく必要がある。 ■チャイム前着席を心掛けるように伝えていく。 ■進路決定後（3年生）の生活習慣の乱れを改善できるよう、引き続き指導をしていく。 ☆引き続き食育講座等を通して、さらに朝食を取ることにの啓発を続けていく。
		「朝読書の時間、集中して読書に取り組んでいる」と答える生徒が90%以上	・「朝読書の時間、集中して読書に取り組んでいる」生徒 86.4%	B	■1.7%の生徒が取り組めていない状況にある。特に2年生の取り組む姿勢に見直しが必要。別の作業を行っている生徒もいるため、指導を工夫する。
	カード（「がんばろう湖西！」）指導を活用し、全教職員一丸となった生活指導と公共心の育成を実践する。	「挨拶ができている」と答える生徒88%以上 「きちんとした身だしなみで生活している」と答える生徒95%以上 「マナーを守って登下校している」と答える生徒100%	■「誰に対しても、自ら挨拶ができるよう心がけている」生徒82.6% ・「服装等きちんとした身だしなみで生活している」生徒95.9% ・「登下校において、徒歩や自転車、電車通学等、マナーをしっかり守っている」生徒97.5% ■挨拶ができていないと感じる生徒が増えている。	B	■今年度はカードを渡す指導が多かった。マナーの点で、生徒の感覚と、教員の感覚がずれているように感じる。意識しなくてもできるようにさせたい。 ■身だしなみは特定の生徒がたびたび指導されている。全職員で、指導・改善していきたい。 ■自分から気持ちの良い挨拶を誰に対してもできる生徒はまだ少ないためもっと増やしていきたい。 ■挨拶とマナーで目標数値に届かなかった。マナー（ルール）を守ること、自分からの挨拶は、毎日、朝SHRで配信しているが、誰に対しても気持ちのよい挨拶や行動ができるよう指導していきたい。

イ	授業を大切にし、授業に集中して取り組む姿勢と、自ら学び、自ら考える力の育成を図る。	「授業を集中して取り組んでいる」と答える生徒が95%以上	・「授業を集中して取り組むことができている」生徒 90.9% ☆9割以上の生徒が集中して授業に取り組んでいると感じている。	B	■昨年より改善しているが目標には届かなかった。授業中のスマホ使用で指導を受ける事例もあり、注意が必要である。
	授業等を通じて表現力の育成を図る。	「授業等で自分の考えをもとに作品・発表原稿等を作り上げた」生徒が50%以上 「クラスを超えた人数の前で自分の意見を発表したことがある」生徒が40%以上	・「クラスを超えた人数の前で発表したことがある」生徒 42.9% ☆全校や学年、地域等、生徒に発表する場を意図的に設定し、多くの生徒が経験を積むことができた。	A	☆校外や全校終礼での発表等、目に見えて生徒の発表が増えている。生徒の回答でも昨年比11.1%増と伸びてきている。継続していきたい。 ◎全校終礼や探究活動での発表やCT・LHRで御礼の言葉を伝える機会が増えた。今後も、活躍の場を設定していきたい。
	教職員の指導力の向上に向け、校内研修の充実を図る。	校内研修を年間3回以上の実施 研修終了後、「有益だった」と答える教職員100%	・校内研修を年3回（生成AIの活用、スクールロイヤー、スクールポリシー）実施した。 ・参考になったと答えた教職員 97.1% ・学校運営に直結する話題であったため非常に意欲的であった。	A	☆有志や若手教員がAIの導入事例を主体的に掲示板に挙げるなど、前向きに取り組むことができた。 ■非常勤講師の先生方も含む全教員で授業改善に関する意識を共有できる研修を持ちたい。 ■研修がICTに偏りがちであった。保護者対応などの実践的な研修の必要性も感じている。
	生徒の学力向上に向けて、授業改善に取り組む。	「湖西高校の授業はわかりやすい」と答える生徒が90%以上	・「授業はわかりやすいと思う」生徒 84.3%	B	■昨年度比-2.6%と肯定的な回答が減少した。非常勤講師の先生方も含め、全教員で授業改善の意識を共有していきたい。 ○ChromeBookや各種サービスの利用を促進し、授業改善をすることができた。

ウ	地域・社会との連携・協働により学びの深化を図る。	外部講師による授業・講演年20回以上 「自らが地域に貢献する活動を行った」と答える生徒が75%以上	- 探究の時間やLHR、授業において、講演会や講座等41回開催した。また、校外学習として、インターンシップや進路ガイダンス等を9回実施した。また、昨年度の内容を吟味し、より実践的な内容で実施できた。 「地域に貢献する活動を行った」生徒64.5%	A	○3年生で志望理由書の書き方講座を新規で行った。 ☆外部講師による専門的な指導や講義は生徒の学習意欲を高めるなど教育効果が高かった。引き続き活用していきたい。 ■限られた時間の中であるが、生徒にとって必要で効果的な指導を検討していきたい。 ☆生徒の地域貢献活動をより多様化し、新聞やケーブルTVで広く地元にPRをしていく。
	地域や保護者への広報活動の充実を図る。	「学校行事や進路状況等の情報がわかりやすく伝えられている」と答える保護者が85%以上	「学校の様子や学校からの連絡等、学校での話題を保護者等とよく話している」生徒82.6% 保護者74.5%	B	○学校行事や部活動大会の予定等や教育活動のいろいろな場面を、スタディサプリやHP、Instagramで随時発信できた。 ■保護者が学校行事や進路選択に関心をもってもらう内容を広報していく。
エ	特別活動、部活動への取り組み意欲を高めるとともに、社会貢献活動の更なる推進を図る。	「特別活動、部活動に意欲的・積極的に取り組んでいる」と答える生徒が95%以上	「特別活動、部活動に意欲的・積極的に参加していると思う」生徒87.2% - 本年度の部活動から1年生のみ全加入、2年生以降は自由登録とした。	B	■自由加入への移行にあたり、部活動に自主的に参加する生徒の意欲等は向上し、未加入の生徒の意識の低下が予想される。未加入の生徒に積極的に部活動参加を呼び掛けるとともに、地域への社会貢献等の活動への参加を促していく。
		部活動等による社会貢献活動15回以上/年	ボランティア部を中心に社会貢献活動への参加18回	A	■ボランティア以外の部活動が社会貢献活動に参加しやすい仕組みづくりをしていきたい。
オ	生徒たちの多様な進路希望の実現を図る。	進路希望実現就職希望者100% 進学希望者95%	就職内定は92.8% 進学内定は96.2% (3/1現在)	B	○生徒個々に応じて継続的な指導を行い、ほぼ進路希望の実現ができています。 ■保護者との共通理解をより徹底し、生徒にとって適切な進路実現を目指していきたい。

様式第3号

オ	生徒たちの多様な進路希望を図る。	課外補講、模擬試験、外部講師による講座等について、随時検証が行われている。必要があれば柔軟に修正が行われている。	☆課外補講や外部講師による講座については、分掌や学年等で随時検証し、柔軟に修正し、効果の高い学習ができています。	B	■進学を目指す生徒にとって学力を身につけることは必要である。 ■就職を目指す生徒にとって社会で求められる力、マナーなど身につけておくべきものがある。そのための効果的な仕掛けを常に検討していく。
	心身の健康増進といじめへの確実な対応	「『いじめを許さない』という雰囲気がある」と答える生徒が90%以上	・「『いじめを許さない』という雰囲気がある」生徒 80.2% 1年 97.0% 2年 81.0% 3年 74.3%	B	☆生徒が相談しやすいよう教育相談室を昼休みに解放した。 ■いじめを許さないという雰囲気は3年生になるにつれて下がっている。教育相談日よりいじめについての問題を取り上げることも検討したい。
カ	教育相談体制の充実を図る	「信頼して相談できる先生がいる」と答える生徒が90%以上 生徒の精神状態調査（心のリスク診断）を毎月実施する	・「信頼して相談できる先生がいる」生徒 77.3% ・「生徒と先生との関係がいい」生徒 93.0%	B	☆心のリスク診断、昼休みの相談室解放、相談室だよりの発行、隔週の相談室会議を通じて、生徒が相談しやすい環境を目指した。目標数値には届かなかったが、生徒の悩みの声を拾っていくことができた。 ■生徒が相談したり相談しやすくなったりする機会を作る。
	安全・安心な環境づくりを図る。	「湖西高校生は落ち着いた学校生活を送っている」と答える生徒・保護者 90%以上	「時間を守り自立した生活」「きちんとした身だしなみ」「授業を集中して取り組んでいる」 生徒 87.6%、95.9%、90.9% 保護者 77.8%、95.6%、74.2%	B	■教室周りを整備し、授業に集中できる学習環境づくりに努める。 ■ルールやマナーを守ることの大切さを指導し、安心して過ごせる雰囲気をつくる。
	学校内外の環境整備・美化を図る。	「清掃にきちんと取り組んでいる」と答える生徒が98%以上	・「清掃活動にきちんと取り組んでいる」生徒 95.9%	B	■教室やトイレ、ロッカーの上にゴミや飲みかけのペットボトルが捨ててあることがあったため、事あるごとに指導をした。 ■教室内の黒板やゴミ箱などを常にきれいに保つとともに、生徒の身の回りの整理整頓を指導する。
キ	危機管理に関する校内体制の強化と地域防災に対する意識の高揚を図る。	校内外の安全指導1回/週 月1回の安全点検	・月1回の安全点検に加え8月と12月には重点的な点検を実施した。	A	☆校舎内の死角になりそうな場所を把握し、随時対応した。 ☆定期的な点検以外にも気づいた校舎内の修理箇所については、随時事務と連携し修繕に努めた。

様式第3号

キ		「防災教育等に当事者意識をもって取り組んでいる」と答える生徒が95%以上	・「命を守るために、交通安全や防災訓練等に当事者意識をもって取り組んでいる」生徒91.3% ・自衛隊による防災訓練を実施した。	B	◎自衛隊の防災講座を開設するなど本校独自の防災学習を実施できている。 ■地域防災訓練への参加率を上げたい。
	教育活動の活性化に向け、施設・設備の充実を図る。	不具合箇所への迅速対処100%	・月1回の安全点検実施により、技能員と協働し、迅速に対応できた。 ・実際に施設を使用している教員に対して気になる点の報告を呼びかけ、連携を強化した。 ・予算措置が必要でない技能員対応の修繕はすべて対応できた。	A	◎技能員か業者か対応を的確に見極め、迅速に修繕することができた。 ■建築基準法第12条に基づく点検結果等外部の知見も参考に、不具合箇所を把握し、安全確保措置として応急的な対応が必要である。 ☆日々の巡回を継続し、かつ安全点検と連携しながら施設・設備の安全管理を徹底する。
		R7年度実施予定の修繕の実施・完了100%	・限られた予算の中で年間通じて計画的に実施した。 ・県に緊急度が高い修繕の追加予算を要求し、実施した。 ・常に緊急度を考え優先すべきものから修繕したため、一部次年度以降に対応せざるを得ない修繕も発生している。	A	◎体育館の照明器具については、全面LED化に向けて設計委託まで関係機関と連携し進めることができた。 ■老朽化のため、修繕箇所が増えている。施設を適切に維持管理していくための工夫や知恵が必要である。 ■大きな工事になるものは県の予算措置が難しいため、特に悪い箇所を応急的・部分的に修繕していく必要がある。
ク	校内業務が、職員にとって過重な負担とならないよう、業務の見直しと改善を行う。	業務の見直しについて一人一案の募集と全体での検討年1回以上	・業務改善案が24案出された。1つ1つ確認し、実現可能なものから実施していく。	B	■一つ一つ確認し、実現可能なものから実施し、業務の効率化を図っていく。
		定時退勤月1回、完全退勤学期1回、職員室施錠時間21時	・定時退勤日の学校施錠平均時間は18:50。 ・職員室平均施錠時間は20:15。(昨年度20:26) ・1人当たり時間外在校等時間の月平均は32時間17分(昨年度31時間29分)。 ・本年度の最終施錠時間は21時とした。	A	■最終施錠時間20時を目標に、役割分担の見直しや協力し合える職場環境をつくり、業務の効率化を進めていく。 ☆今後も超過勤務届を提出することで計画的に業務が行えるようにしていく。